

3. 本時の展開

展開	学習活動と主な発問 (○主な発問、◎中心発問)	児童の発言	教師の支援と評価
導入	1. 「働く」について考える。	・ 仕事	・ 誰のために何のために働くのか問い返すことで、価値への導入を誘う。
展開 前段	2. 資料「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読んで話し合う。 ○すぐにビニール手袋をはめ、もくもくと大便をごみぶくろにすくって入れる大浜先生を見て「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ○小さな女の子が寒い中、牛乳瓶を温め配っているのを見たときの「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ○必死で絵本を探す「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ◎「みんないきいきしてきたようだ」と聞いた「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。	・ くさくないのかな。 ・ ぼくはいやだな。 ・ これでトイレができるぞ ・ 服がよごれる ・ 先生すごいな ・ いやじゃないのかな ・ あんな小さい子でも働いてる ・ えらいな ・ ぼくは、何もしてないし悪いな。 ・ 泣いているのはかわいそうだ ・ なんとかしてあげたい ・ 喜ぶ顔が見たい ・ ぼくも働きたい ・ ぼくも何かしないとみんなに悪い ・ 何かしていると気がまぎれる ・ うれしいな ・ やってよかったな ・ もっとがんばりたい ・ いやな事が忘れられる ・ 自分も元気になった ・ 神戸を復活させるぞ	・ 阪神大震災・東日本大震災の写真や記事を紹介することで、悲惨さを知り、「ぼく」の絶望感を感じられるようにする。 ・ 資料のキーワードを確認することで場面を想起しやすいようにする。 ・ 「はっと」「びっくり」「もうしわけないような気持ち」などの表現を押さえることで、「ぼく」の心の変化に気づくようにする。 ・ 自分も大変な状況なのになぜ、誰かのために働けるのかを切り返すことでねらいにせまるようにする。 ・ だれが・どんなことがうれしいのか聞くことでねらいとする価値に近づけるようにする。 ・ 避難所に来たときと働き始めたときの様子を比較して考えられるよう補助的な発言をすることで、ねらいにせまる。 ・ 相手だけではなく、自分にも喜びがあることに気づかせたい。 ・ みんなとは誰のことが絶望的な状況の中でいきいきしてきたのはなぜか考えられるようにし、ねらいにせまる。
展開 後段	3. 自分の生活をふりかえる。 ・ 今までの生活の中でだれかのために働いてよかったと思うことはありますか。または、これからどんなことをしていきたいと思いませんか。	・ 4 B を盛り上げるための係をメンバーと一緒に話し合いながら活動している。 ・ 分団の班長で小さい子が安全に行けるよう登校している。 ・ 代表委員でクラスの意見をまとめたり、静かに児童集会に行ったりしている。	・ 書きにくい児童には、事前にとったアンケートに基づいて支援する。 ・ 机間指導で、その時の気持ちが思い出せるように声をかける。
終末	4. ゲストティーチャーの話を聞く		黄之瀬さんがどのような思いでボランティアをされているかを聞く。